

ヴァイオリニストTAIRIKの戯言

〔第83回〕

弦が揺れると、僕は季節の風になる

✦ 文 佐田大陸 text by Tairik Sada ✦

長野に薫る海風

先日、長野県の上田サントミュージゼで、僕の所属するグループ「TSUKEMEN」の新曲を初演しました。

新曲の発表はいつもドキドキソワソワしますが、披露後は曲が自分たちの手を離れ、自由になっていくような気がします。長野県ではどこへ行っても近くに山があります。それどころか見渡す限り、山、山、山。今回はそんな山だらけの長野を舞台に、「海」をテーマに曲を書きました。

一体なぜ？

僕が天の邪鬼だからという理由だけではありません。

舞台は雄大な北アルプス連山を一望でき、美味しい水と山葵が有名な信州安曇野。安曇野の穂高神社で行われる「お船祭り」は、高さ6mにもなる船の形をした山車をぶつけ合う激しいお祭りです。山の中なのに海の文化の名残があるという不思議。実はその秘密は、安曇野の地名の由来にもなった「安曇族」に隠されています。

安曇族の歴史は古く、ルーツは九州福岡の志賀島にあり、長い年月をかけて安曇野に辿り着いたと言われています（その際に通ったルートには諸説あります）。

古事記では、安曇族の祖先神は「綿津見命」(日本書紀では「海神」などの表記)で、「ワタは海を意味し、ツは連体助詞、ミは霊格を表す」(國學院大學古典文化事業データベースより)。つまり、海の神靈を表す存在です。元々海の部族だった安曇族が、最終的に山に囲まれた安曇野に根付いたことにとってもロマンを感じます。

この楽曲を上田サントミュージゼで初演した日、サントミュージゼの美術館では「特撮のDNA in 信州上田展」が開かれていました。過去のゴジラの作品の台本やフィギュアなど、膨大な数が日本全国から集まった展覧会です(2024年9月8日まで)。新曲発表の前日にはこちらでもミニライブをさせていただきました。

展覧会の入口には迫力のある『ゴジラ1:0』のゴジラが展示されていました。偶然にも1:0において、ゴジラを討伐する作戦の名前が「海神作戦」。奇しくもこの日は「2つの海神作戦」が同じ場所で展開され、山の中に海のエネルギーが集まりました。

山派か海派かなどと話題になることがあります。山と海が手を取り合ったようにも見え、元々相容れないものにもコミュニケーションを取

れる道筋や形があるのかもしれない、と感じた1日でした。

profile

TAIRIK(たいりく) ヴァイオリニスト / ヴィオリスト / 作曲家

桐朋学園大学音楽部卒業、同大学院修了

ヴァイオリン & ピアノによる3人組インスト・ユニット「TSUKEMEN」を結成後、キングレコードよりメジャーデビュー。最新アルバム「HAPPY キッチン」など、リリースしたCDはクラシック・チャート1位を次々と獲得。国内にとどまらず、アメリカ、アジア、ヨーロッパなどで700本を超える舞台に立ち、50万人以上の観客を魅了。近年ではTSUKEMENに加え、古澤巖氏と結成した弦楽四重奏団「品川カルテット」、水谷晃氏と結成した「MIZUTANI × TAIRIK」も大反響を呼んでいる。

「徹子の部屋」「題名のない音楽会」「きょうの料理 栗原はるみのキッチン日和」など数多くのTV番組に出演。SBCラジオ「TSUKEMEN TAIRIKの信 TAIRIK発見」毎週月曜 15:00 台にレギュラー出演中。

<https://tsukemen-music.com>

